

【様式 02】 高大連携公開講座シラバス

* 科目 No.	21207
----------	-------

1. 開設大学	広島大学 生物生産学部	開講場所 (キャンパス・施設)	東広島キャンパス (生物生産学部及び付属農場)			
2. 科目名	家畜とのふれあいを通じて学ぶアニマルサイエンス					
	学問分野	番 号	33	名 称	農学 (畜産)	
3. 担当教員	都築 政起・谷田 創・黒川 勇三・小櫃 剛人 生物生産学部					
4. 開講期間 (曜日) 開講時間	平成 31 年 7 月 24 日 (水) 9 時 30 分 ~ 17 時 00 分 (105 分から 150 分×3 回)					
個別開講日	1 回目 7/24	2 回目 /	3 回目 /	4 回目 /	5 回目 /	6 回目 /
5. 募集定員	30 人					
6. 科目内容・ 授業計画	<p>私たちは、乳・肉・卵などの食料や毛・皮などの衣料を家畜から得ることで、心身ともに豊かな生活を送ることができます。しかし、家畜生産の現場が日常から離れていることが多く、家畜がどのように飼育されているか意外と知られていません。また、生物学をはじめとする様々な科学的知見が家畜生産に応用されています。本講座では、広島大学の農場で実際に家畜とふれあいながら、家畜生産の科学について学びます。</p> <p><b>第 1 回 9:30-12:00 家畜の過去・現在・未来</b> 担当 都築 政起 教授 多様な品種がある現在のニワトリ成立の経緯から、おいしくて病気に強いニワトリをつくる研究の現状など、ニワトリを例に、家畜のたどってきた道とこれからを考えてみましょう。ニワトリの生殖に関する実習も行います。</p> <p><b>第 2 回 13:00-15:00 ヒトと家畜との関わりについて考えてみよう</b> 担当 谷田 創 教授 家畜の健康管理と福祉、循環型家畜生産、家畜生産物の利用、食の安全・安心について農場体験を通して学ぶことで、ヒトと家畜との関わりについて考えてみましょう。</p> <p><b>第 3 回 15:15-17:00 家畜の世話をしてみよう</b> 担当 黒川 勇三 准教授, 小櫃 剛人 教授 牛乳がウシの体の中でどうやってつくられるか、どのように牛乳を生産しているのか、ウシはどんなものを食べているのか、搾乳体験や給餌体験を通じて家畜生産の実際を学んでみましょう。</p>					
7. 受講料	無料					
8. 別途負担費用	(テキスト代・実習料等) なし					
9. 開講条件※1 あり・ない	① 最少開講人数 ( 10 人) 定員超過の不許可は選考により決定					
	② 不許可・不開講通知日 (7月12日(金)以前の開講科目は3月末まで/7月13日(土)以降の開講科目は6月末まで)					
10. その他特記事項	<p>受講者についての制限事項、事前に予習しておく資料・文献など特記すべきこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・応募人数が定員を超えた場合は、選考によって受講者を決定しますので、受講できないことがあります。</li> <li>・開講日の 2 週間前から当日までの間(7/11 から 7/24 の間)に海外から帰国する予定のある人は、防疫上、農場に入れられないために受講申し込みできません。</li> <li>・当日は、9 時 20 分までに生物生産学部の玄関で受付をして、講義室で待機してください(講義室の場所は第一会議室を予定しています)。</li> <li>・各自で昼食・飲み物を準備(持参)してください。午前中は生物生産学部で講義・実習を行い、午後から大学の農場にバスで移動して体験的な講義や実習を行います。</li> <li>・本講座では講義だけでなく、ニワトリやウシを対象とした簡単な実習も行いますので、軽作業のできる衣服、帽子、靴(できれば長靴)を準備してください。</li> <li>・2 時限目にはバターをつくる実習をします。清潔なタオル、空のペットボトル 1 本 (500 ml のもの。水またはお茶のペットボトルで中身をきれいに洗い、キャップをつけたもの。ラベルははがしてください) を各自用意してください。</li> </ul>					
11. 開設大学への 交通手段	http://www.enica.jp/→広島大学→交通アクセス→ 東広島キャンパス 広島大学生物生産学部 https://www.hiroshima-u.ac.jp/seisei					

※申込時点で原則、受講できます。ただし、開講条件で不許可・不開講があった場合は受講申込者へ通知します。